

デジタル化についての一考

情報通信工学科 辻 琢人

自分の学生時代は、学生一人に一台パソコンがあるかどうかという感じで、まだパソコンが現在のように普及している状態ではなかった。当時の学生の欲しいもののトップ3には、パソコンが入っていて、現在とは隔世の感がある。自分自身も学生の時に、メモリ8MB, HDD160MB, CPUクロック周波数33MHzというパソコンを購入して卒業論文を書いた。現在では当たり前のインフラになっているインターネットも学生時代には無く、当時のパソコンマニアが使っていたパソコン通信があった程度である。

一方、現在学生のほとんどが持っている携帯電話も学生時代には普及していなかったが、1994年に端末をユーザーが購入できるようになり、携帯電話が爆発的に普及するようになった。

自身の学生時代から十有余年が経過し、パソコンや携帯電話などのデジタル機器が現在当たり前のように身の回りに存在している。そして、それらはインターネットに接続されて、世界中の様々な情報やモノを瞬時に入手できる。気に入った音楽はCDではなくiTunesなどのネット配信で、映画もネットでオンデマンド、友達もネットで探す時代・・・なのかな？

多くの物がデジタル化され、ネットで手に入れられるようになったが、これまで紙ベースだった新聞・雑誌・本もデジタル化、ペーパーレス化するのだろうか。新聞に関しては、既にネットで読むスタイルが定着して、新聞を購読しない人が多くなり、新聞社が黒字を確保するのに苦労しつつある。また、頭をさほど使わない(といっは怒られるかもしれないが...)でページをめくっていくことができるマンガなどもそれなりにデジタル化は進んでいくだろう。

一方、絵本はどうかというと、小さい子供が様々なサイズ、絵柄の絵本を自分で選んで、独特の風合いを感じたり、自分でページをめくったり、という自分で触れる感覚を直接味わい、刺激を受けることがなくなるので、絵本のデジタル化・ペーパーレス化はあまり進んで欲しくない。また専門書なども、紙に印刷した厚い本を熟読して、マーキングして、書き込んで、と自分の手を動かすという作業がなくなり勉強した気がなくてしっくりこないように思われる。

したがって、個人的には今後、情報の収集や絵でストーリーを追えるマンガなどは、デジタル化・ペーパーレス化が進み、思考的な作業を必要とする場合は、これまで通り、紙ベースの本が残っていくのではないかと、是非残ってほしいと思う。

Google のブック検索と称した「電子図書館」への動きや各種研究論文誌の「電子ジャー

ナル」化から鑑みると，図書館もこのような劇的に変化する時代の流れに応じた役割を担わなければならないだろう。個人的には，図書館では実際に本に触れたり，本を探したりすることをリアルに感じたいので，これからもこれまでと同じように実体験できる，好奇心をくすぐる場として存在してもらいたいと思う。